

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
(以下「ディズニー」という)  
第十一回ディズニー・チャンネル放送番組審議会  
議事録

- 開催日時 : 2008年12月5日(金) 15:30~17:00
- 開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社  
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ  
ショナル ジャパン  
スタジオ・ディズニー会議室
- 在任審議委員数 : 7
- 出席審議委員数 : 6
- 出席審議委員氏名 : 加藤 諦三  
木下 美子  
中川 真弥  
前田 耕作  
柳生 純麿  
湯川 れい子
- その他、ディズニ : エディー・カックス  
ーからの出席者 (バイス・プレジデント/編成部)  
アイリーン・ハンベルガー  
(プログラミング・シニアマネージャー/編成部)  
待鳥 雅之  
(コンプライアンス・スーパーバイザー/編成部)

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの  
番組編成・改編について
  - 2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について  
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にVHSテープを送付  
した。)
    - ・「ママ・ミラベルのムービータイム」
    - ・「スティッチ！」
    - ・「ライフ with デレク」
    - ・「フルハウス」
    - ・「ロボディーズ」

**審議の概要**

1) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー番組編成について  
ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニーの番組編成・改編について説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- 前回ご紹介したシリーズの中では、『ウェイバリー通りのウィザードたち』がアメリカでも根強い人気。日本でもディズニー・チャンネルで放送枠を拡大する予定。
- 来年から、新たな試みとして、14:00にドラマ放送枠を設けた。
- 家事を終えて一段落した主婦の方たちもターゲットに出来るのではないだろうか？

2) ディズニー・チャンネル及びトゥーン・ディズニー放送番組について  
ディズニー・チャンネル放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

『ママ・ミラベルのムービータイム』について：

- アフリカのサバンナを舞台に、ママ・ミラベルが動物の子供たちに、それぞれの動物の特徴、行動や特性などを優しく解説してくれるシリーズ。アニメーションも子供たちになじみ易い優しいタッチで可愛く描かれている。2007年イギリスにて制作。
- アニメーションと実写を合わせて作られている。
- ママが親切に教えてくれる感じでよい。派手ではないが、とても良い印象を受けた番組。自然への理解も高まって、子供には最適と思われる。

『スティッチ！』について：

- ミッキーやプーに並ぶ人気キャラクターであるスティッチの新たに国内で制作されたTVシリーズ。  
スティッチはジャック・スパロウの様なアンチ・ヒーロー的な存在で、自由奔放で好奇心が津用ところが子供たちの共感を呼ぶ。作品のテーマとしては「思いやり」の大切さなどが重要なものとして挙げられる。優しさや正義の心、物事のルールを守ることなども作品のメッセージ、またテーマとしても含まれている。

- 正直なところ、初めはスティッチというキャラクター自体が少々可愛くないとも感じられたが、今では非常に好感が持て、気に入っている。  
スピリチュアルな島であるハワイから始まったスティッチが、日本では沖縄を選んでくれたことが嬉しい。
- 東洋的な雰囲気や要素があり、それが世界へ出て行くのは良いこと。環境を大切にしようというメッセージも含まれているように見える。
- 日本で新規に制作し、世界へ向けて発信する先駆けとなるシリーズ。

#### 『ライフ with デレク』について：

- 2005年カナダ制作のTVシリーズ。親の再婚に伴って3人兄妹と2人の姉妹が新しい家族として生活を共にするというドラマ。物語はケイシーという15才の女の子と義理の兄弟となる同じく15才の男の子デレクとの兄妹間の争いを中心に進められていく。いつも仲が悪く、いがみあいながらもお互い理解し始めて、次第に一つの家族としてまとまっていく姿を描く。
- 多種多様な家族中たちがあるアメリカの例が、日本人にどのように受け入れられるか興味がある。
- 日本では精神的なつながりが薄い家族も見受けられる。離婚はしないが、形式的に繋がっているというような…。こういった形の家族がもっと広く受け入れられるようになったら良い。

#### 『フルハウス』について：

- 妻を亡くしたダニーという男性が義理の弟と親友の力を借りて男手だけで3人の娘を育てるという物語。家族や友人の大切さというものを語るドラマで時折シリアスなテーマも扱う。  
日本での認知度も高い作品である。
- 幅広い層に受け入れられている海外ドラマの王道と言ったところであろうか。また見たいと思った。
- 身近な設定でよい。大人と子供もあわせて受けると思う。家族形態に拘らないスタイルが、また良い。

#### 『ロボディーズ』等について：

- 日本オリジナル制作の1話約2分のシリーズ作品。国内の制作会社との共同制作で番組ホームページも共同で展開している。  
来年2月にはアメリカでも放送開始される予定。

制作に関しては、クリエイター陣はアニメーションの人気作品を支えてきたチーム。声優陣はベテランを起用し、実写との合成部分についてもCG制作班は最近の日本映画を扱ってきたチームが携わっている。

- 闘いがメインになるというように見受けられるが？
- ヒーローは、まず暴力以外の方法で解決を試みるというのがルールとしてある。この作品はコメディであり、戦いのシーンが多くあるものの、実は「暴力はいけないものである」というメッセージが込められている。その根拠として、武器の使用は極力抑えられており、「人と人が戦うときは基本は1対1で対峙し、お互いの主張を直でぶつけ合うべきである」というメッセージも含まれている。  
最近流行のカードで戦ったりモンスターを召喚するという代理戦争の形ではなく、自分自身が相手と直接接触すべき、というもの。  
「コミュニケーションを図ろう」ということである。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので17:00に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。